

Title	京大広報 号外
Author(s)	
Citation	京大広報 (2010), 1004n: 3163-3172
Issue Date	2010-04
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/196427">http://hdl.handle.net/2433/196427</a>
Right	
Type	Others
Textversion	publisher



# 京大広報

号外

2010.4

## 目次

### 〈入学式〉

学部入学式における総長のことば……………3164

大学院入学式における総長のことば……………3166

### 〈大学の動き〉

平成22年度学部入学式……………3168

平成22年度大学院入学式……………3169

平成22年度入学者選抜学力試験(個別学力検査)  
の結果……………3171

名誉教授称号授与式……………3172



平成22年度 入学式



京都大学総務部広報課

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>

## 入学式

## 学部入学式における総長のことば

平成22年4月7日

総長 松 本 紘

本日、桜舞うこの「みやこめっせ」にご参集いただきました3,013名の皆さん、京都大学にご入学おめでとうございます。ご来賓の沢田敏男元総長、西島安則元総長、尾池和夫前総長、名誉教授、列席の副学長、各学部長とともに、今日のよき日をお祝いしたいと思います。皆さんはこれまで長く厳しい受験の道を辿ってこられたと思います。これまでの精励に敬意を表します。また、皆さんを支えてこられたご家族や関係者の皆様にも心よりお祝いを申し上げます。

さて、本学に入学された皆さんに、まずお話ししたいことがあります。それは、本学の自由についてです。本学の基本理念は次のような前文で始まります。ぜひ一度本学の基本理念を読んでいただきたいと思います。

「京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多元的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。」としています。

この前文の根底を流れるのは、「自主自立」の精神であり、それは、本学の学生諸君には、一人の成人として、自らに責任を持ち、自ら主体的に勉学に励んでほしいということを意味しています。いうまでもないことかもしれませんが、くれぐれもこの「自由」を履き違えないでください。自由は、勝手気ままに無責任な態度や行動を意味するいわゆる「気まま、気随」ではありません。私の理解する本学の自由というのは、己の内外にある既成概念にとらわれることなく、発想を巡らし、己を大切に、個人が自ら光るという概念です。また、個人が既成概念や既存のシステムに縛られることなく、自由な発想に基づいて行動しつつも、常に社会や周辺の人々を思いやり、責任ある態度を貫く。さらに、自由な選択を一度したのちには、選択したものに自ら責任を持ち、やり遂げるまで頑張りぬく。これをすべて備えた自由こそ本学の自由ではないでしょうか。自由



の学風は、そうした責任ある自由を身につけた諸先輩を輩出し、それらの諸先輩が各界で活躍し、独創的な業績や仕事を成し遂げることによって形作られてきたものです。

これまで、受験生としての皆さんの生活は確かに厳しいものであったと思いますが、それでも安全なレールの上を走ってきた側面があることもご承知のことでしょう。しかし、それだけでは本学の自由を謳歌することはできません。大学生活では今までの自分をもう一度見つめなおし、必要とあらば、これまでの学びのスタイルを組直す、いわゆるアンラーニングが必要だと思います。

これから、大学での学びが始まりますが、それは、高校までのものとは大きく異なり、戸惑われるかもしれません。これまでの学びは、いわば先人の教えをしっかりと学び取ることだったといえるでしょう。従って常に答えがありました。この段階は「聞慧(もんえ)」即ち聞き取ることによって「知識」を得ようという段階です。しかし、大学で学ぶ学問においては、その段階を越えなければなりません。即ち「聞慧」によって得られた知識の基礎の上に、「思慧(しえ)」「修慧(しゅうえ)」を通して思索と行動を続け、自分自身の思惟を展開しなければなりません。答えは一つとは限りません。答えは存在しないかもしれません。課題の多くは、少なくとも現在未知であり、それをどのようにとらえ、解いていくかも自明ではありません。しかし、文明の黎明期から積み重ねられてきた、この諸学芸の方法論「聞思修」の智慧の段階的教育法は、1200年も前の伝教大師、最澄も叡山の教育に取り入れていました。この方法論は、皆さんにとっ

て大いなる力となります。今の皆さんには、その力を一日も早く我が物とすることが必要です。また、受け身の姿勢のままでは、真の学問を身につけることはできません。皆さんは、いずれ日本のみならず、世界のリーダーとして、様々な分野で活躍していくことになると思います。そのためには、自らが専攻する学問分野の基礎と応用にかかる知識や技術を身につけるだけではなく、一見関係のないように見える他の幅広い素養や周辺知識を教養として貪欲に吸収し、それをもとに多角的に判断し、物事の本質を見抜く力量を備えてほしいと願います。

これと関連して、青春の真ただ中におられる皆さんに言っておきたいことがあります。青春の時期は人生において最も尊く、最も価値のある時期の一つでしょう。しかし、同時に最も危ない時期の一つでもあります。かつて本学の教授を務められた哲学者・和辻哲郎先生が二十歳代の末期に書かれた随想をまとめられた「偶像再興」という名著があります。その中に「すべての芽を培え」という作品があります。その珠玉の小品において、先生は青春のみずみずしさ、しなやかさという精神の特性に加えて、肉体の絶頂期に伴い、頭がぐらぐらし、心が沸き立つような直接的な人間の欲望に制圧されうる危うさの同時性を指摘しておられます。青春時代のこれらの勢いを萌えいでたばかりのいろいろな樹の芽に例えておられます。これらの芽の成長が、日常的にかつ内在的に存在する刺激の追及のみによって、歪んでしまわないようにして、その芽の成長を助ける滋養分だけを与えることが肝要と言っておられます。この滋養分こそが人類が築いてきた芸術、哲学、宗教、歴史であり、これらの精神的な宝によって偏らない教養が得られる、と説かれています。つまり、青春時代に学問を志すと同時に違った次元で青春時代を象徴するすべての芽を培え、と諭しておられます。全く同感です。中高年になって光り輝く教養も京都大学で身につけてください。

京都大学における学びの機会は、真理探究の道を自ら進む者にあまねく開かれています。しかし、そこには、ときとして、濃密で激しい考え方のやりとりが必要となることもあります。決してあきらめず、「活達な対話」と相手の立場、考え方も尊重することを忘れず、あわせて自らも重んじるよう、即ち自重自敬をこころがけてください。本学の教員は、未知のものを学ぼうとする者に対して、同じ道を歩む先

達として真剣に向き合います。また、大学として必要かつ多彩なカリキュラムを準備しています。決して安易な勉学の道はとらないでほしいと願います。ここでフランスの詩人ジャン・コクトーが言った「青年は決して安全な株を買ってはならない」という言葉を皆さんに贈っておきたいと思います。

皆さんは、国際的知識人としての教養を身につけると同時に、専門家としての知識だけではなく、複眼的に今後の世界を見る能力を得てほしいと思います。そのためにも、皆さんが経験するこれからの大学生活では、読書にも多くの時間を費やすことを希望します。それも多読によって、視野を広げ、精読によって深く思索し、自らを磨き、複雑で多元的な問題に対処できるようになってほしいのです。インターネットで安易に情報にアクセスするだけではなく、文理を越える読書によって頭を耕し、時空を越えてほしいと思います。読書によって、いにしえの賢者に相まみえ、世界中の先達を友としてください。そのためには、語学もまた大事であり、この機会に是非さまざまな外国語の習得にも努力してほしいと思います。真の国際人には、どうしても国際語は必要とされます。若いときにチャレンジした外国語は、たとえ忘れることがあっても、再度必要なときにその語学の勉強を再開する上で非常に役立ちます。

現在、本学には、およそ3,000名の教員と2,500名の職員、22,000名の学生がいます。京都大学在学中に出会い、そこで生まれる人間関係は、将来きっと皆さんの人生を彩り深いものにすることでしょう。学習や研究で出会う人のみならず、クラブ活動やその他の出会いを大切にして、自ら進んで人間関係の綾を織りなしてほしいと思います。我々教職員は、伝統を基礎とし革新と創造の魅力・活力・実力ある京都大学を目指して、大学の教育・研究環境を充実させていきます。本日ご臨席のご家族や関係者の皆様には、引き続き、本学への支援や応援を切にお願い申し上げます。

皆さんは難関を突破し、今日ここに集まっています。皆さんの多くは、今後どの方向に自分の才能を伸ばしていけばよいのかを決めていることと思います。しかしながら、まだそのことを定め得ず悩んでいる人もいるかもしれませんし、入学したものの、違う方面に才能があるかもしれないと思っている人もいるかもしれません。学力の発揮だけが才能ではありません。比喩的にいえば、平面角の $2\pi$ ではな



く、立体角の $4\pi$ のどこかに皆さんが大きな樹に成長するような方向がきっと存在します。それも、華麗な花をつける樹木だけでなく、むしろ逆境においても常に変わずみずみずしい緑を保つ「歳寒の松柏」となれるよう、あわてることなく京都大学の在学中にその方向を見つけていただきたいと思います。最後になりましたが、皆さんには、何よりも自ら

の健康を大切に、体とこころを鍛え、学業に励んでいただきたいと思います。そして、新たな友人と出会い、語らい、課外活動やボランティア活動等様々な可能性に目を向け、力一杯活躍されんことを祈念し、私の入学式の式辞とさせていただきます。

京都大学へのご入学、おめでとうございます。

## 大学院入学式における総長のことば

平成22年 4月 7日

総長 松 本 紘

本日、京都大学大学院に入学される、修士課程2,247名、専門職学位課程321名、博士後期課程939名の皆さん、おめでとうございます。ご来賓の名誉教授、列席の副学長、研究科長、学舎長、教育部長、研究所長とともに、今日のよき日をお祝いしたいと思います。また、これまで皆さんを支えてこられたご家族や関係者の皆様にも心よりお祝いを申し上げます。

修士課程では、これまでの学士課程での蓄積の上に、さらに基礎的な知識を補い、研究のために必要な技術を身につけるなど、専門家として独り立ちできるような体系的な教育が行われます。専門職学位課程では、高度の専門性を必要とする職業などに従事する人材を育てるために、理論と実務との橋渡しを行う新たな教育課程の中で学修が進められ、国際的に活躍しうる人材を養成します。

博士後期課程では、修士課程までに習得した知識や技術を基礎に、自ら研究計画を構想し、独創的な研究を遂行し、学術誌などにより研究成果を国際的に発信していくよう指導が行われます。これら大学院において、皆さんは専門分野において世界の最先端に躍り出ることを目指してください。

皆さんの進む大学院での学問について、一つアドバイスがあります。これまでの人生において、私には職業としての学問があり、それを楽しんで参りま



した。そのなかで「学問とは真実をめぐる人間関係である」と感じるようになってきています。学問により人間関係を勉強したのではなく、人間関係をもとに学問をさせてもらった。私はそう感じています。非常に頭がよくて優秀な人が、なぜか学問がうまくいかないことがあります。そのときその人は、人間関係がうまくいかなかったのかもしれないと推測しています。例えば、私たちは資料を調べる際にも、データを収集する際にも、部分的には人に頼ることになります。そうすると、これまでどういう人間関係を築いてきたかによって、研究内容は大きく変わる可能性が出てきます。人間関係がうまくいかないと大事を成し遂げ得ないというのは、人という社会性を持つ存在にとって本質的なことなのではないでしょうか。論文を書く場合でも、人の論文を読み、人と議論し、それを通して自分を高め、独創性を発揮するわけです。独創性を発揮するということは、まさしく人間関係そのものと私の目には映るのです。

もちろん学問はそういう側面だけではなくて、非常に客観的で、特に自然科学の場合は、だれがやっても同じ結果や結論を導き出せるという一種の再現

性が重要です。だから、人間関係なんか関係ない、数式を基礎に、厳密な自然観察をして、客観的な事実を積み上げていけばいいという考えもあるかもしれませんが、私はそういう考えには与しません。客観性を問うことは当然のことですが、その上で開花する独創性の素晴らしさこそは、人間関係に規定されることが多いと思うのです。私はその例として日本人離れて偉大な思想家、宗教家であった空海を思わずにはおられません。彼が世に出たのは、ちょうど現在の大学院生の年頃だったと思います。

大学院では、各自が「自らの研究テーマ」を持ち、それを大きく育てていく必要があります。「記問の学」、つまり、すでに確立された学問体系や現在多くの学者が取り組んでいる、いわば流行の学問領域だけにとらわれず、まず「問い」の発見を自らが始めなければなりません。研究において最も苦しいことは、実はこの部分かもしれません。そして、この「自らの研究テーマ」をどのような観点から、どのように攻略するかを日夜考え続けることが、日々の大学院生活となります。攻略のためには、知識を充実させていくことも必須なのですが、学問という未知の世界の開拓においては、あまり的をしぼりすぎる学修には限界があるように思えます。必要と思われることだけにしぼって学修することは、一見無駄がなく効率的に見えるかもしれませんが、専門の枠を越えるような大きな独創の芽を摘むことになるかもしれません。自らの専攻分野を越え、理系文系を問わず、他の分野の学識を豊かにすること、即ち大学院生にふさわしい高度な教養を身につけることによって、専門分野における既存の枠組みではとらえきれなかった斬新な視角が与えられ、独創的な攻略法にたどり着くことができるかもしれないからです。

大学院生にふさわしい高度な教養を考えてみると次の内容を持つと思われます。一つは、今直ちにというわけではなく、あなた方が世界の中心的役割を担い始める10年先の地球社会の行く末を見つめ、その時代に社会のリーダーとして必要とされる知識体系や考え方を準備しておくことです。もう一つには、リーダーとして世界で活躍する際に必要となる語学力、リテラシー、説得力、企画力、発信力、感化力などの人間力を涵養し、弾力性のある豊かな人間力を身につけるということです。この二つが重要だと考えます。特に博士後期課程では、このことが今後ますます必要とされることだと思います。

私はしばしば人生を樹に例えます。大樹が育つには、衍沃な土壌が必要です。土壌を富ますことなく、外見のみを整え、水を与えるだけでは、大樹は育ちません。大学という土壌を衍沃にする努力を我々教職員も懸命に重ねますが、自らも広く深く根を伸ばし、根を張って、先人の積み上げてきた多彩な学術の華の蜜を貪欲に吸収して、大樹となってほしいと思います。

皆さんの多くは、今後どの方向に自分の才能を伸ばしていけばよいのかをすでに決めていることと思います。しかしながら、まだそのことを定め得ず悩んでいる人もいるかもしれませんし、課程に入学したものの、違う方面に才能があるかもしれないと思っている人もいるかもしれません。19世紀のアメリカの思想家ラルフ・ワルド・エマーソンは次のように言っています。「才能とは天から与えられた使命だ。自分に対していっさいの空間が開かれるような方向がひとつはあるものだ。その方向に限りない努力を傾けよと無言のうちに誘いかける能力が、人間にはいろいろそなわっているものだ」。彼の言うように、皆さんの才能が花開く道は必ずあります。これからも絶えずそれを探りながら、自分の道を切り拓いていってください。

また、本学には大学院を中心にして1,400名におよぶ留学生や海外からの研究者が在籍しています。海外の大学との学生交流協定も数多く締結し、海外での武者修行の様々な機会を提供しています。また、多くの京都大学の研究者が国際舞台で活躍をしています。本学のこの学術資源を有効に活用して、大学院時代に活動の場を世界に拡げて、ぜひ積極的に海外に雄飛してほしいと思います。若いときの海外経験は、何物にも代え難い有意義なものです。

閉塞感に包まれている地球社会は、広い視野、柔軟な思考、難問を前にひるまない気概をもったリーダーを必要としています。その未来は、皆さんを含めて我々自らの手で拓かねばなりません。皆さんが、京都大学の大学院生として、さらなる高みを目指し、既成概念にとらわれないで、常に「問い」を自らに発しながら、課題解決への道を切り拓いていくと同時に、自らを心身ともに磨いていかれることを願い、私のお祝いのことばといたします。

皆さんのご活躍を期待しています。大学院入学、誠におめでとうございます。

## 大学の動き

### 平成22年度学部入学式

4月7日(水)午前9時30分から、京都市勧業館みやこめっせにおいて、沢田敏男元総長、西島安則元総長、尾池和夫前総長、名誉教授をはじめ各理事・副学長、各部局長等の出席のもとに平成22年度学部

入学式が挙行された。

京都大学交響楽団演奏、合唱団による学歌斉唱に続き、総長の式辞があり、午前9時54分に終了した。今年度の入学者数は次のとおりである。

平成22年度学部入学者数

区 分 学 部	一般入試 (前 期)	外国学校 出身者選抜	外国人留学生 特別選抜	編 入 学	再 入 学	転 入 学	学士入学	合 計
総合人間学部	123 <sup>人</sup>	— <sup>人</sup>	— <sup>人</sup>	— <sup>人</sup>	— <sup>人</sup>	— <sup>人</sup>	2 <sup>人</sup>	125 <sup>人</sup>
文 学 部	227	—	—	—	—	—	—	227
教 育 学 部	62	—	—	5	—	—	—	67
法 学 部	330	6	—	8	—	—	—	344
経 済 学 部	241	7	9	12	—	—	—	269
理 学 部	316	—	—	—	—	—	—	316
医 学 部	259	—	—	—	—	—	—	259
薬 学 部	83	—	—	—	—	—	—	83
工 学 部	974	—	16	14	—	—	—	1,004
農 学 部	316	—	2	—	1	—	—	319
合 計	2,931	13	27	39	1	—	2	3,013



(教育推進部)



## 平成22年度大学院入学式

4月7日(水)午後2時から、京都市勧業館みやこめっせにおいて、名誉教授をはじめ各理事・副学長、各部局長等の出席のもとに平成22年度大学院入学式が挙行された。

京都大学交響楽団演奏、合唱団による学歌斉唱に続き、総長の式辞があり、午後2時22分に終了した。  
今年度の入学者数は次のとおりである。

平成22年度修士課程入学者数

区 分 研究科	修 士 課 程						合計
	入学	外国人留学生		再入学	外国人留学生		
		国費	私費他		国費	私費他	
文 学 研 究 科	116 <sup>人</sup>	2 <sup>人</sup>	1 <sup>人</sup>	— <sup>人</sup>	— <sup>人</sup>	— <sup>人</sup>	119 <sup>人</sup>
教育学研究科	36	—	3	—	—	—	39
法 学 研 究 科	2	—	12	—	—	—	14
経済学研究科	24	2	8	—	—	—	34
理 学 研 究 科	285	6	2	1	—	—	294
医 学 研 究 科	67	1	4	—	—	—	72
薬 学 研 究 科	62	—	3	—	—	—	65
工 学 研 究 科	660	18	29	—	—	—	707
農 学 研 究 科	278	4	17	—	—	—	299
人間・環境学研究科	137	2	25	2	—	—	166
エネルギー科学研究科	131	2	4	—	—	—	137
情報学研究科	183	—	1	—	—	—	184
生命科学研究科	71	1	1	—	—	—	73
地球環境学舎	30	7	7	—	—	—	44
合 計	2,082	45	117	3	—	—	2,247

平成22年度修士課程(専門職)入学者数

区 分 研究科	入学	専門職学位課程		合計
		外国人留学生	私費他	
		国費	私費他	
法学研究科	166 <sup>人</sup>	— <sup>人</sup>	— <sup>人</sup>	166 <sup>人</sup>
医学研究科	32	—	1	33
公共政策教育部	34	—	2	36
経営管理教育部	63	—	23	86
合 計	295	—	26	321

平成22年度博士後期課程入学者数

区 分 研究科	博 士 後 期 課 程												合計
	進学	外国人留学生		編入学	外国人留学生		再入学	外国人留学生		転入学	外国人留学生		
		国費	私費他		国費	私費他		国費	私費他		国費	私費他	
文学研究科	43 <sup>人</sup>	3 <sup>人</sup>	3 <sup>人</sup>	13 <sup>人</sup>	— <sup>人</sup>	— <sup>人</sup>	— <sup>人</sup>	— <sup>人</sup>	— <sup>人</sup>	— <sup>人</sup>	— <sup>人</sup>	— <sup>人</sup>	62 <sup>人</sup>
教育学研究科	22	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	24
法学研究科	8	2	5	4	1	2	1	—	—	—	—	—	23
経済学研究科	11	7	7	5	—	3	—	—	—	—	—	—	33
理学研究科	105	—	—	21	1	2	—	—	—	—	—	—	129
医学研究科	26	1	1	7	2	1	—	—	—	—	—	—	38
薬学研究科	24	1	2	6	1	—	—	—	—	—	—	—	34
工学研究科	75	3	8	24	9	11	—	—	—	1	—	—	131
農学研究科	51	1	6	12	4	8	—	—	—	—	—	—	82
人間・環境学研究科	49	5	10	16	1	1	—	—	—	—	—	—	82
エネルギー科学研究科	7	—	1	7	—	4	—	—	—	—	—	—	19
情報学研究科	22	—	2	12	—	—	—	—	—	—	—	—	36
生命科学研究科	29	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	31
地球環境学舎	—	—	—	2	1	—	—	—	—	—	—	—	3
合 計	472	24	45	131	21	32	1	—	—	1	—	—	727



## 平成22年度博士課程(医学専攻)入学者数

区 分 研究科	博 士 課 程						
	入学	外国人留学生		進学	外国人留学生		合計
		国費	私費他		国費	私費他	
医 学 研 究 科	136 人	8 人	9 人	8 人	1 人	－ 人	162 人
合 計	136	8	9	8	1	－	162

## 平成22年度一貫制博士課程入学者数

区 分	一 貫 制 博 士 課 程						
	入学	外国人留学生		編入学	外国人留学生		合計
		国費	私費他		国費	私費他	
アジア・アフリカ 地域研究 研究科	21 人	1 人	1 人	2 人	4 人	－ 人	29 人
合 計	21	1	1	2	4	－	29

## 平成22年度博士課程(3年)入学者数

区 分 研究科	博 士 課 程						
	進学	外国人留学生		編入学	外国人留学生		合計
		国費	私費他		国費	私費他	
地球環境学舎	8 人	3 人	－ 人	5 人	2 人	3 人	21 人
合 計	8	3	－	5	2	3	21



(教育推進部)

## 平成22年度入学者選抜学力試験(個別学力検査)の結果

平成22年度入学者選抜学力試験(個別学力検査)の前期日程試験は、2月25日(木)・26日(金)および27日(土)に実施した。

(特例試験は、3月4日(木)・5日(金)に実施)

学部・学科別の受験者数、合格者数、入学者数等は次表のとおりである。

(平成22年4月1日現在)

学 部	募集人員 (A)	志願者数 (B)	倍率 (B/A)	第1段階 選抜合格者数	受験者数 (C)	倍率 (C/A)	欠席者数	欠席率	合格者数	辞退者数	追加合 格者数	入学者数
総 合 人 間 学 部	120 <sup>人</sup>	579 <sup>人</sup>	4.8	486 <sup>人</sup>	483 <sup>人</sup>	4.0	3 <sup>人</sup>	0.6%	123 <sup>人</sup>	0 <sup>人</sup>	0 <sup>人</sup>	123 <sup>人</sup>
前期 文 系	65	340	5.2	266	265	4.1	1	0.4	67	0	0	67
前期 理 系	55	239	4.3	220	218	4.0	2	0.9	56	0	0	56
文 学 部 前期	220	738	3.4	738	722	3.3	16	2.2	227	0	0	227
教 育 学 部 前期	60	232	3.9	232	227	3.8	5	2.2	62	0	0	62
前期 文 系	50	191	3.8	191	187	3.7	4	2.1	52	0	0	52
前期 理 系	10	41	4.1	41	40	4.0	1	2.4	10	0	0	10
法 学 部 前期	320	876	2.7	876	857	2.7	19	2.2	330	0	0	330
経 済 学 部 前期	230	802	3.5	773	759	3.3	14	1.8	241	0	0	241
前期 一 般	180	575	3.2	575	567	3.2	8	1.4	190	0	0	190
前期 論 文	25	117	4.7	88	87	3.5	1	1.1	25	0	0	25
前期 理 系	25	110	4.4	110	105	4.2	5	4.5	26	0	0	26
理 学 部 前期	311	892	2.9	871	867	2.8	4	0.5	319	3	0	316
医 学 部 前期	250	605	2.4	584	572	2.3	12	2.1	264	5	0	259
医 学 科 前期	107	303	2.8	282	279	2.6	3	1.1	109	0	0	109
人間健康科学科 前期	143	302	2.1	302	293	2.0	9	3.0	155	5	0	150
看護学専攻 前期	70	143	2.0	143	139	2.0	4	2.8	75	4	0	71
検査技術科学専攻 前期	37	81	2.2	81	78	2.1	3	3.7	39	0	0	39
理学療法専攻 前期	18	37	2.1	37	35	1.9	2	5.4	20	1	0	19
作業療法専攻 前期	18	41	2.3	41	41	2.3	0	0	21	0	0	21
薬 学 部 前期	80	213	2.7	213	209	2.6	4	1.9	83	0	0	83
薬 科 学 科 前期	50	124	2.5	124	121	2.4	3	2.4	53	0	0	53
薬 学 科 前期	30	89	3.0	89	88	2.9	1	1.1	30	0	0	30
工 学 部 前期	955	2507	2.6	2506	2475	2.6	31	1.2	975	1	0	974
地球工学科 前期	185	485	2.6	485	480	2.6	5	1.0	190	0	0	190
建 築 学 科 前期	80	229	2.9	228	226	2.8	2	0.9	82	0	0	82
物理工学科 前期	235	572	2.4	572	561	2.4	11	1.9	238	0	0	238
電気電子工学科 前期	130	381	2.9	381	376	2.9	5	1.3	133	1	0	132
情 報 学 科 前期	90	221	2.5	221	219	2.4	2	0.9	92	0	0	92
工業化学科 前期	235	619	2.6	619	613	2.6	6	1.0	240	0	0	240
農 学 部 前期	300	876	2.9	876	871	2.9	5	0.6	316	0	0	316
資源生物科学科 前期	94	—	—	—	—	—	—	—	97	0	0	97
応用生命科学科 前期	47	—	—	—	—	—	—	—	49	0	0	49
地域環境工学科 前期	37	—	—	—	—	—	—	—	40	0	0	40
食料・環境経済学科 前期	32	—	—	—	—	—	—	—	34	0	0	34
森林科学科 前期	57	—	—	—	—	—	—	—	60	0	0	60
食品生物科学科 前期	33	—	—	—	—	—	—	—	36	0	0	36
計	2,846	8,320	2.9	8,155	8,042	2.8	113	1.4	2,940	9	0	2,931

〔外国学校出身者のための選考の実施結果(外数)〕

学 部	募集人員 (A)	志願者数 (B)	倍率 (B/A)	第1次選考 合格者数	受験者数 (C)	倍率 (C/A)	欠席者数	欠席率	合格者数	辞退者数	入学者数
法 学 部	10 <sup>人(以内)</sup>	29 <sup>人</sup>	2.9	19 <sup>人</sup>	10 <sup>人</sup>	1.0	9 <sup>人</sup>	47.4%	6 <sup>人</sup>	0 <sup>人</sup>	6 <sup>人</sup>
経 済 学 部	10	28	2.8	15	11	1.1	4	26.7	7	0	7

(注) 受験者数・欠席率は最終教科のものである。

(学生部)

## 名誉教授称号授与式

4月5日(月)午前11時から、百周年時計台記念館において、理事・副学長、副理事、理事補、部局長の出席のもとに名誉教授称号授与式が挙行された。

総長より称号を授与された方は、次の54名である。



(氏 名)	(推 薦 部 局)	(氏 名)	(推 薦 部 局)
森 澤 眞 輔	(工 学 研 究 科)	松 林 清 明	(霊 長 類 研 究 所)
高 橋 康 夫	(工 学 研 究 科)	今 井 憲 一	(理 学 研 究 科)
鍋 島 陽 一	(医 学 研 究 科)	苧 阪 直 行	(文 学 研 究 科)
平 松 幸 三	(アジア・アフリカ地域研究研究科)	川 崎 一 朗	(防 災 研 究 所)
半 田 哲 郎	(薬 学 研 究 科)	磯 田 正 二	(化 学 研 究 所)
三 原 弟 平	(人間・環境学研究科)	今 村 祐 嗣	(生 存 圏 研 究 所)
濱 田 正 美	(文 学 研 究 科)	木 田 重 雄	(工 学 研 究 科)
森 棟 公 夫	(経 済 学 研 究 科)	柏 原 正 樹	(数 理 解 析 研 究 所)
田 中 淡	(人 文 科 学 研 究 所)	御 牧 克 己	(文 学 研 究 科)
淀 井 淳 司	(ウ イ ル ス 研 究 所)	景 山 節	(霊 長 類 研 究 所)
檜 山 爲次郎	(工 学 研 究 科)	谷 坂 隆 俊	(農 学 研 究 科)
榊 茂 好	(工 学 研 究 科)	八 木 紀一郎	(経 済 学 研 究 科)
西 井 正 弘	(人間・環境学研究科)	片 井 修	(情 報 学 研 究 科)
市 川 光 雄	(アジア・アフリカ地域研究研究科)	橋 本 弘 藏	(生 存 圏 研 究 所)
関 口 秀 雄	(防 災 研 究 所)	真 鍋 俊 明	(医 学 研 究 科)
西 村 和 雄	(経 済 研 究 所)	乾 賢 一	(医学部附属病院)
紀 平 英 作	(文 学 研 究 科)	中 務 哲 郎	(文 学 研 究 科)
高 橋 陽一郎	(数 理 解 析 研 究 所)	市 川 朗	(工 学 研 究 科)
花 田 禎 一	(理 学 研 究 科)	田 中 耕 司	(地 域 研 究 統 合 情 報 セ ン タ ー)
北 村 雅 夫	(理 学 研 究 科)	福 岡 和 子	(人間・環境学研究科)
青 木 謙 治	(工 学 研 究 科)	大 寫 幸一郎	(工 学 研 究 科)
齊 藤 泰 弘	(文 学 研 究 科)	代 谷 誠 治	(原 子 炉 実 験 所)
宗 像 豊 哲	(情 報 学 研 究 科)	山 本 憲 二	(生 命 科 学 研 究 科)
堀 智 孝	(人間・環境学研究科)	川 崎 昌 博	(工 学 研 究 科)
大 東 祥 孝	(国際交流センター)	富 岡 清	(薬 学 研 究 科)
大 澤 靖 治	(工 学 研 究 科)	永 田 和 宏	(再生医科学研究所)
熊 本 博 光	(情 報 学 研 究 科)	笹 尾 登	(理 学 研 究 科)

(総務部)